

受験番号

氏名

「建築意匠・建築史」は問1～問4までの全4問です。試験問題は○ページあります。それぞれの設問の問題文をよく読み、指示に従って解答してください。他の科目と同じ解答用紙には解答しないでください。解答用紙には解答した問番号がわかるように、解答用紙に記入してください。採点時に問番号がわからない解答は0点となります。

問1

下記の文章の①～⑩について、ふさわしい語句を解答用紙に「問1 ①×××、②△△△」のように記入してください。

・日本の飛鳥時代の寺院建築については、初期の舍利崇拜としての塔中心の伽藍配置から、法隆寺以降は塔と金堂並置など日本的改変が起きる。塔中心の配置の事例としては、1塔3金堂形式の飛鳥寺や、発掘により1塔1金堂形式の伽藍配置が判明しており、回廊部材の大量出土もあった（①）などがあげられる。なお、（①）は金堂の間柱配列が放射状であったことも特徴である。 ①山田寺

・イスラム建築における重要な建築物としてはモスクがあげられる。モスクの構成要素としては（②）とよばれるメッカの方向を示すくぼみ、（③）とよばれる説教台、（④）とよばれる光塔が特徴的である。また、多彩なアーチ形状を有することも特徴である。 ②ミヒラブ（ミフラブ） ③ミンバル ④ミナレット

・初期キリスト教建築の教会堂では、ローマの公共建築のプランから片側のアプスを除いた（⑤）式と、円形や八角形、ギリシャ十字形を採用した（⑥）式の教会堂がみられる。（⑤）式は、以後の教会堂の基本形となり、（⑥）式は、墓廟建築や洗礼堂に多く用いられることとなる。 ⑤バシリカ ⑥集中

・奈良時代の金堂以外の建築としてあげられる事例のひとつが（⑦）である。（⑦）は東大寺の倉のひとつであり、勅封とされてきた。北倉と南蔵が3角形断面の校木を積み上げ高倉とした校倉造、中倉は板倉である。なお、平安期の法隆寺綱封蔵も同じ形式だが、中倉が省かれている。 ⑦正倉院正倉（正倉院もしくは正倉でも可とする）

・本地垂迹系の神社形式のひとつに（⑧）造がある。（⑧）造は、切妻、平入の形式が2棟前後にならんだ形をしている。したがって妻側から見るとMの字の屋根形状が見て取れる。遺構が少なく、宇佐神宮、伊佐爾波神社などの少数にしか見られない。 ⑧八幡

・明治以降、日本人建築家は西洋の建築技術や建築様式を急速に習得していった。その中でも、ジョサイア・コンドルが教鞭をとった工部大学校の第1期生は日本人建築家の第1世代ともよばれる。旧東宮御所（現迎賓館赤坂離宮）をネオ・バロック様式で設計した（⑨）もその1人であり、この建築の完成によって日本人建築家による西洋の伝統様式の習得が達成されたといわれている。 ⑨片山東熊

・先日逝去した建築家・槇文彦は、著書『（⑩）』において、西洋の中央の入り口から空間の端へと至る思想であるのに対して、日本においては、入り口が空間の端にあり奥へと進むという「奥の思想」があることを主張

受験番号

氏名

した。 ⑩見えがくれする都市

問2

下記の文章A～Dのうち、内容が正しいものを選択して、「問2 ①A ②A」のように解答用紙に記入してください。

①

- A：メソポタミアにおけるバビロニアの都市には、ウルク、ウル、テル・アスマル、マリなどに都市や宮殿が存在したが、ヴォールト技術は持っておらず、持ち送りアーチ構造のみを用いていた。 ×
- B：プレ・ロマネスクの建築は、ロマネスク成立以前のおよそ9-10世紀の建築である。様式としての独自性は確立されておらず、同時代のビザンチンやイスラムの建築に比べると素朴であるといえる。代表的な事例として、シュパイヤー大聖堂などがあげられる。 ×
- C：イタリアのロマネスク様式の教会の特徴は、三廊式で各ベイに交差ヴォールトがのるなど、典型的なロマネスクに近いといえる。ただし、祭室が東西の両方にあることが多い。これは、世俗の王も礼拝対象としたためとみられている。代表事例にはピサ大聖堂などがある。 ×
- D：窓の上部を分割する石の装飾的な棧のことをトレーサリーとよぶが、ゴシック建築においてはそれらの装飾が発展した。あまり明確ではないものの時代ごとにトレーサリーのスタイルが存在し、またギリスでは独自の発展をみせた。13世紀ころが「レイヨナンススタイル」、15世紀後半ころが「フランボワヤンススタイル」の時代である。 正答

②

- A：平安時代の寺院建築の事例として、三仏寺投入堂があげられる。三仏寺投入堂は奥州平泉の丘陵地にある三仏寺に設けられた阿弥陀堂で、方三間・木瓦・金箔張で、後世に鞘堂に安置された。奥州藤原氏の権勢が見て取れる。 ×
- B：日本の近世の町家は2階建が標準化していく。1階部分は開放的な店構えとなり、格子も目立つようになる。袖うだつのほか、17世紀後半には瓦葺きや外面大壁など耐火建築化も進む。 正答
- C：鹿苑寺舍利殿には書斎兼小会所である4畳半の同仁斎と呼ばれる部屋が存在し、現存最古の座敷飾りが残されている。 ×
- D：『匠明』の「主殿之図」や「東山殿屋敷ノ図」は室町末期の將軍邸を基に上層邸宅を描いたとされる。東三条殿は、それら「主殿之図」「東山殿屋敷ノ図」と酷似することから、室町末期の書院造を継承したものとみられる。 ×

③

- A：マニエリスムの造形的性格としては、盛期ルネサンスの完璧な造形をゆがめたりずらしたりして用いた。ただし、その差異はわずかであり、玄人的な操作といえる。マニエリスムの代表事例としては、アンドレア・パラディオ設計のカンピドリオ広場があげられるが、真円ではなく楕円が平面形状に用いられている。 ×
- B：ヴェルサイユ宮殿の一角に作られたアモーとよばれる牧歌的な集落風景のエリアは、その後の各国の伝統的な田園風景を良いものととらえなおす新古典主義の最初期の事例といえる。 ×

受験番号

氏名

C：アール・ヌーヴォーとは 1900 年をはさんで 10 年ほどの間だけ行われたスタイルである。1920 年代にモダニズムの建築に収斂していく近代運動の先駆けといえる。アール・ヌーヴォーの代表事例としては、ヴィクトル・オルタのタッセル邸などがあげられる。 正答

D：フランク・ロイド・ライトは、鉄骨構造を好み、バルセロナパビリオンなど、立体の平面・直線への解体を再構築するというデ・ステイル的手法で独自の作風を確立したモダニズム期の建築家である。第 2 次世界大戦時にはアメリカへ渡り、レイクショアドライブ・アパートメントなどを手掛けた。 ×

④

A：関東大震災の復興に際して、都市の不燃化を試み、青山アパートメントなどの鉄筋コンクリート造の住宅を供給したのが、日本住宅公団である。日本住宅公団の開発した 51C 型標準設計は nLDK 型住宅の源流ともいえる。 ×

B：丹下健三は、戦後復興から高度経済成長期の日本建築界をけん引した建築家。代表作に広島平和記念資料館、香川県庁舎、国立代々木競技場、山梨文化会館などがあげられる。 正答

C：1960 年代の建築の前衛運動として、ピーター・クック、ロン・ヘロンらがイギリスで展開したものが「メタボリズム」である。ウォーキング・シティやプラグイン・シティといった架空の建築のドローリングを数多く発表した。 ×

D：建築界のノーベル賞とも称されるプリツカー賞では 1 名ないし 1 組の建築家が毎年選出されている。日本人建築家も選出されることがあり、これまでも数名が選出されている。2024 年に選出された日本人建築家は隈研吾であり、北京建外 SOHO、横須賀美術館、公立はこだて未来大学などが代表作である。 ×

⑤

A：コーリン・ロウは、著書『S, M, L, XL』において「Bigness」という概念を提示している。建物が一定以上に巨大化した際に、近代の建築理論では扱えない問題が現れてくることを指摘している。 ×

B：藤本壮介は、建築の境界の透明性を、素材の薄さや白さ、大きなガラス開口、金属版への映り込みなどを用いることで表現してきた建築家である。代表作としては、金沢 21 世紀美術館、ルーヴル・ランスなどがあげられる。 ×

C：伊東忠太は、建築の実作と共に日本建築史の確立に尽力した。法隆寺が日本最古の寺院建築であることを述べた『法隆寺建築論』は日本建築史の出発点ともいえる。 正答

D：バーナード・ルドフスキー著の『風土』では、世界各地の土着的な建築物や集落が取り上げられている。著名な建築家ではなく、様々な無名の職人や工匠たちによって育まれてきたアノニマスな建築の中に近代建築の要素を見出している。 ×

問 3

ビザンチン建築について、ビザンチン建築が確立したドーム構造について、その名称と特徴を解答用紙に記入してください。くわえてビザンチン建築の代表事例や、地域的特徴や、その他、知ることについて解答用紙に記入してください。解答部分の冒頭には問 3 と表記すること。

解答の要点

受験番号

氏名

ドーム構造の名称：ペンデンティヴドーム 交差部（ベイ）に外接ドームとしてかけることのできるドーム。それまでのドーム（スクインチドーム）は内接ドームであったため、各ベイの4辺が閉じることになったが、ペンデンティヴドームとなることで、軽やかなドームが可能となった。

代表事例：ハギヤ（アヤ）・ソフィア、サン・マルコ寺院など

その他特徴：ビザンチン建築は6世紀が最盛期。東ローマ帝国を中心に発展。12世紀以降は東欧にギリシャ正教とともに波及。玉ねぎ状のドームなど意匠の変化。技術的発展はあまり見られず。後期ビザンチン建築としては、聖バシリヤ、ウラジミール大聖堂など。

問4

近年、3DCAD やモデリングソフトの発達が著しい。一方で、建築設計においては、建築模型による検討や完成形のプレゼンテーションも伝統的に行われてきた。

本問では3DCAD やモデリングソフトによる3DCG と、建築模型とを比較して、それぞれの長所・短所、その活用における特徴・注意すべき点について述べなさい。字数は400字程度までとする。

解答部分の冒頭には問4と表記すること。

解答の要点

3DCAD やモデリングソフトによる3DCG：

長所：立体的整合性、作成に材料コストが不要、データから図面化がダイレクトに可能、同一の物の複製が容易、3D プリントなどの各種デジタルファブリケーションとの連動が可能、BIM 化により施工やその後の管理への一貫したデータ継承の可能性、VR など疑似的体験の可能性 など

短所：スケールレスなためスケール感覚を身に着けることの難しさ、構法やディテールの理解が不足している場合にモデリングが困難、十分な出力（レンダリング）における機器の高性能化の必要性による設備投資 など

建築模型：

長所：作成・閲覧に特別な設備投資が不要、建築手順などの簡易検討が可能、スケールがあるためスケール感を身に付けやすい、素材感などの検討が可能、物体（もの）としての価値 など

短所：作成に材料コストが必要、図面との整合性は必ずしも取れない、同一物の複製が困難、一度作成した場合に切断部などの変更が困難、物理的破損の可能性 など

特徴・注意点：そもそも可能なプレゼンテーション形式や作成環境によって使い分ける必要がある、BIM など施工・管理工程との連携の必要があるのか不要かといった活用目的の確認が必要である など